

令和7年度第1回岡崎市観光基本計画推進委員会 会議録

- 1 日 時 令和7年9月25日（木）14時～16時
- 2 場 所 岡崎市役所東庁舎6階601号室
- 3 委員（敬称略）
出席者：高橋一夫、岩月幹雄、藤井克弘、竹内博剛、加藤英紀、平岩亮人、
市川文勇、中林菜穂子、平野精一、香西佑香
欠席者：八木則行、花村元気、西尾孝志
- 4 オブザーバー（敬称略）
出席者：靱井泰晴
欠席者：野村俊介
- 5 事務局
経済振興部長：畔柳久司、経済振興部技術担当部長：浅井隆
観光推進課長：二村和孝、同副課長：黒川憲子、同課観光推進係長：清水
里美、同主任主査：杉浦美穂、同主事：山本雄大、同事務員：中川詩歩
- 6 関係者
商工労政課長：水上順司、文化振興課長：田中典子、スポーツ振興課長：
木和田佐奈枝、まちづくり推進課長：中田真也
- 7 議題
(1) 観光白書について
(2) 観光施策について
(3) その他
- 8 傍聴者
2名
- 9 議事要旨
―開会―

議題1 観光白書について

資料 1 に基づいて事務局から次のとおり説明。

- ・観光白書は、観光施策の効果を検証するため、観光に関するデータを取りまとめて平成 30 年度から毎年発行している。
- ・令和 7 年度版の観光白書は、令和 6 年度からスタートした第 2 次観光基本計画に合わせて改訂を行っている。観光施設入込客数の対象施設の見直し、第 2 次観光基本計画の概要及び 4 つの重点事業の実施状況の掲載、観光イベント入込客数の対象イベントの見直しの 3 つを行ったほか、全般として基準値の設定と目標値をグラフに記載するように改めた。
- ・令和 6 年度の本市の観光状況をみると、観光に対する市民の満足度、市民の観光重要度意識、来訪者のリピーター率が高く、目標値を超えている。一方で、観光施設年間入込客数や観光消費単価はアフター大河の落ち込みが見られるものの、いずれの数値もコロナ前より増加しており、観光特需を引き継いだ観光の底上げが図られた。また、若者の来街者数の達成率は 77.2% と低く、今後一層力を入れて取り組むべき項目と考えている。

【委員の意見等】

委員長) 古くから観光で生計を立てる人が多い観光地では観光重要度意識が高くなる傾向があるが、観光で生計を立てる人が多いわけではない岡崎市で市民の観光重要度意識が高いことは評価すべきだ。

○重点事業の掲載について、事業の妥当性や課題、その対策などがわかるようにより詳細な内容を掲載すべきだ。重点事業 1 にあるとおり、観光コースは充実してきたため、それに加えて観光ガイドの育成や市民活動団体の選定など、人との交流を重視したソフト面の強化もできるとよい。

○大河ドラマファンの観光客は宿泊への結びつけができなかったが、東海オンエアファンの宿泊者は年々増加してきている。

統計データ全般について、令和 5 年度と比較して入込客数等が減少することは想定していたが、妥当な減少幅はどの程度なのか。基準値はコロナ前のものになっているが、現状に即しコロナ後のデータを基準値とするべきだ。

委員長) 宿泊は、会議や社内研修のオンライン化などの影響により、二度と戻らない出張等の需要が約 20% あると考えられている。一度宿泊事業者と協議の上基準値を定めるべきだ。

○岡崎城公園以外の市内の歴史観光施設はインバウンドの観光客が少ない。外国人観光客向けの案内を充実させるべきだ。

委員長) 日本史の知識がない外国人観光客に対しては、日本語よりも細かく説明した案内を整備する必要がある。

○インバウンド向けの施策について、仏教徒の割合が大きい国からの観光客向

けにお寺巡りの観光プランを展開したり、若者向けに日本らしいフォトジェニックなスポットを展開したりするのはどうか。また、海外の富裕層の中ではタクシーの貸し切りや個人ガイドの需要が高い。高校生の海外向けボランティアガイドなども検討すべきだ。

委員長) 法改正により、公的機関・DMO が認定した観光ガイドが自家用車を使って観光案内をすることができるようになった。岡崎市も検討してはどうか。
○現在全国で問題となっている、オーバーツーリズムによるトイレ問題やゴミの放置問題などは岡崎市では起きているのか。

事務局) 岡崎市ではそういった問題は起きていない。

委員長) オーバーツーリズムが発生している地域では宿泊税を導入し、その税収をトイレの整備・清掃などの費用に充てている。今後岡崎市でも同様の問題が発生した時にも宿泊税を導入するとよい。

○外国人観光客を呼び込むためには、看板等の多言語表示など、受け入れ態勢を整備するべきである。

家康行列などのイベントの規模が縮小している。市民参加型のイベントにするのはどうか。

○SNS 発信には伸びしろがあると感じる。メディア発信をする際には日本語だけでなく、英語での発信を同時に行ったり、英語でのタグ付けをしたりすることで拡散力の向上を図るべきだ。

委員長) ホームページについても同様に英語検索に対応するため、英語版のランディングページを用意するべきである。

○酷暑により夏場の観光客が減少している。暑さ対策に注力すべきだ。

○観光施設入込客数と観光イベント入込客数をまとめた市全体の入込客数を集計すべきだ。現状中央総合公園など競技会の会場となる施設が統計に入っていない。集計方法を考えたほうがよい。

事務局) 中央総合公園は観光施設ではなくスポーツ施設であるため、観光施設入込客数の対象施設に挙げられていない。定期開催されない大型イベントの集計については検討する。

議題 2 観光施策について

資料 2 に基づいて事務局から次のとおり説明。

令和 7 年度の当初予算は約 4 億円。内訳は大型イベント開催に係る費用が約 2.3 億円、岡崎城公園誘客促進費用が約 0.7 億円、団体補助施設管理費用が 0.5 億円、周遊促進やインバウンド誘客（広域連携）、フィルムコミッション（撮影支援）等その他の費用が 0.5 億円となっている。

令和 8 年度の当初予算は令和 7 年度の 85%となる 3.4 億円を想定している。安

全対策の強化や人件費の高騰により、大型イベントに係る費用は増加する見込みとなっており、より効果的な周遊促進とリピーター獲得のための予算額が縮減される可能性がある。

来年度はアジア競技大会もあり、市政 110 周年を迎える年でもある。予算が少ない中で、どのような施策を行うことで観光を促進できるか考えながら予算編成を行っている。

【委員の意見等】

委員長) 一つ一つの施策に効率性と高い効果が求められる。

○三井アウトレットパークに設置される観光 PR ブースについて詳細を聞きたい。また、来年度は大河ドラマ『豊臣兄弟！』が放送されるが、連携した施策の予定はあるか。令和 8 年度のアジア競技大会では野球、アーチェリー、バレーボールといった人気種目が誘致されているが、誘客についてどのような施策を考えているか。

事務局) 観光 PR ブースでは季節のイベントや観光地を紹介する PR を行う。来ていただいた方には都市部や中山間地域を含めた周遊をしてもらえるよう経済振興部全体で準備を進めている。『豊臣兄弟！』については、徳川家康公が登場するため、岡崎市としても他の市町と連携して施策を実施したいと考えている。劇中での徳川家の描き方も見極めて検討したい。

スポーツ振興課長) アジア競技大会では、選手の宿泊施設に PR ブースを出展する予定になっている。スポンサーとの兼ね合いで商業利用は難しいが、いかに集客をするか工夫している段階。名古屋・豊橋から鉄道で来る観客の動線に着目している。

委員長) 主目的地以外への誘客は難しい。来訪者の旅行形態に合わせた周遊施策を考える必要がある。

○観光白書でも交通に関する不満が大きいとあったため、公共交通機関などの整備をしてもらいたい。

○家康行列の距離が短いため伸ばしてほしい。

○交通の便が悪く、周遊するための手段がない。主要な観光地をつなぐ交通手段があるとよい。

○予算削減されているが、量より質を重視した観光基本計画の目標達成を目指して各課で連携して観光施策を実施してもらいたい。観光客を呼び込み、交通費や宿泊費などで岡崎市での消費に繋げたい。

委員長) 予算が不足するならば、企業版ふるさと納税を導入してはどうか。

○予算が限られる中で観光施策を実施するためには、学校やNPO、事業者との協働を進めるべきだ。

議題3 その他

委員からの意見・質問なし。

事務局から三井アウトレットパーク岡崎観光 PR ブース視察会を案内。